

復活節第5主日（A年主日の福音を中心とする「霊的な読書」）

（一）聖書朗読：ヨハネ福音 14：1-12

神であるキリストを信じなさい。キリストの父の家には住む所がたくさんある。行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたを私のもとに迎える。キリストは道であり、真理であり、命である。キリストを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。彼は私たちに御父をお示しくださる。キリストを知っているなら、御父をも知ることになり、既に父を見ている。キリストのうちにおられる父、また、キリストが父の内におり、大きな業を行うことを信じなさい。

（二）カテキズムの響き（カトリック教会のカテキズムの番号#516、905、909、2466-2470； YOUCAT #452-454）

キリストの全生涯は御父を啓示するものです。その言葉、行い、沈黙、苦しみ、生き方、話し方、すべてがそうです。だから、イエスは、ご自分自身を見た者が父を見たと言明し、(若 14:9)、そして御父は「これは私の子、選ばれた者。これに聞け」と仰せになりました。キリストは御父のみ旨を果たすために人となられたので、私たちへの神の愛、さらに神のすべての真理を表されました。イエスは恵と真理とに満ちておられ、世界の光です。イエスは真理そのもので、キリストを信じる者は、だれも暗闇の中に留まることがなくて、その言葉に留まり、自由にする真理を知り、その真理によって、聖なる者とされます。私たちも、真理の霊に生かされることで、真理に従い、無条件に愛します。事実上、人間は真理に向かって歩みます。真理を敬い、証する義務があります。真理とは、行動するときには真理を表し、語る時には真実を口にし、陰ひなたや、見せかけ、偽善などを行わない強さのことです。正義という観点から、一人ひとりの人間には、他人に対して事実を示す義務があります。キリストの信徒は、真理のうちに生きることを受け入れます。即ち、キリストに倣って飾り気のない生活を送り、キリストの真理に留まります。さらに、信徒は生活の証しと言葉とをもってなされるキリストの宣教によっても、遂行します。そのうえ、信徒は世の中に人を罪に押しやるような制度や生活条件があればこれを改善して、これらのすべてが正義の法則に基づくものとなり、また諸徳の実践の妨げよりもむしろ助けとなるように努力しなければなりません。こうすることによって、彼らは文化と人間の諸活動に道徳的価値を寄与することができます。

（三）カテキズムの学び（『コンペンディウム』カトリック・カテキズム要約の番号）

#191 信徒はキリストの王職に与ること：

信徒は自分自身の中で、また世において、キリストのように、罪に打ち勝ち、自己放棄と聖なる生活とによって、さらに、人間の現世的活動や社会の諸制度に道徳的価値を浸透させ、奉仕職を果たします。

#521 人は真理の要求に従って、自分の生活を規正する義務がある：

人は言行においては、誠実で正直であるよう、真理に留まります。キリストは真理そのものなので、キリストに従う者は彼のように真理の霊のうちに生きます。

最後の祈り：主イエス・キリスト、あなたは道であり、真理であり、命である。あなたの復活の力をお与えください。いつも、救いの愛を信じ、正義と真理をもって、あなたのように、世界で永遠の命に至る道を他人に示すことができますように。